

第1回・第2回検討会の主な意見

1 第1回検討会(5月18日(土)13:00~16:00)

(1) 主な議事

- ① 財政白書の策定概要(目的・位置付け・盛り込む内容・検討スケジュール)
- ② 明石市の財政状況(これまでの財政状況等) ほか

(2) 事務局説明「財政白書の策定概要」

●目的・位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・財政状況や財政運営上の課題を見える化し、市民の皆さまと情報共有する。 ・これまでの財政状況の把握と、今後の目標等を盛り込んだ今後の財政運営指針となる。 ・みんなの意見を反映し、誰にでも手に取ってもらえる「わかりやすい財政白書」を目指す。
●盛り込む内容	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>これまでの部分</u> 財政の基礎、決算状況(歳入・歳出)、基金、市債、財政指標、地方公会計、公共施設の現状と課題 など ・<u>これからの部分</u> 今後の財政収支見通し、今後の財政運営のための目標と取組方針
●スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・全6回の検討会とタウンミーティング等の開催を経て、令和7年3月に財政白書を策定する。 ・財政白書を踏まえて、来年度に公共施設配置適正化計画を策定する。

※「これまで」に対応した基礎資料として、「明石市の財政状況」を事務局から提出・説明

(3) 委員からの主な意見

●明石市の財政状況	<ul style="list-style-type: none"> ・財政白書のたたき台になるものか。 ⇒(事務局回答)財政状況を示した基礎資料であり、たたき台ではない。 ・この資料ですべての財政情報が提供されたと認識している。次は、どこがポイントになるのかを委員それぞれが考える必要がある。 ・単に他市と数字を比較するだけでなく、市の施策で市民にとって重要なものがあれば伝えていくべきである。 ・現役世代や子育て世代の転入で人口が増えている割に、市税収入が増えていないように見える。 ・人口構成を他市と比較することが必要である。
-----------	---

2 第2回検討会(6月30日(日)13:00~15:30)

(1) 主な議事

- ① 明石市の財政状況(今後の見通し・目標案等)
- ② 財政白書の具体的な策定方針 ほか

(2) 事務局説明「明石市の財政状況(今後の見通し・目標案等)」

●今後の収支見込	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の収支を見込むにあたって、人口は重要な要素となる。 ・年齢区分を 15 歳～64 歳で括るのは違和感がある。15 歳というのは若すぎるし、最近では 60 代後半でも働き続けている人が多い。 ・目標的な位置付けである市の人口推計と、過去のトレンドに基づいた国の人口推計の 2 パターンを使用し、今後 10 年間の収支見込を作成 ・10 年後の 3 基金残高見込：市の人口推計 101 億円、国の人口推計 64 億円
●今後の財政運営の目標案	<ul style="list-style-type: none"> ・10 年間を通して財政基金残高 70 億円以上の確保 ・10 年後における 3 基金残高合計で概ね 100 億円の確保

(3) 委員からの主な意見

●今後の収支見込	<ul style="list-style-type: none"> ・2 種類の人口推計があることで、収支見通しも 2 種類あるため、読んだ市民が混乱しないよう、伝えたいメッセージを明確にすることが必要である。 ・公共施設の整備にどの程度の財源を捻出できるのかなど、来年度の公共施設の計画に繋がりを持たせるようなまとめ方が必要である。
●財政白書の具体的な策定方針	
・対象	・中学生が理解できる程度がよい。
・分量	・簡潔さが重要。資料が厚くなるほど読むのが大変になる。
・全体構成	・「わかりやすさ」は大事だが、白書なので、ある程度の内容の充実も必要である。最後に資料編を作って、本編とは分けて詳細を説明する方法もある。
・表現方法 (構成・グラフ)	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や文章が多いと読みづらい。 ・最低限の文字数で説明+グラフという簡潔なものが良い。 ・トピックスごとに、冒頭に市民が知りたいことと、その回答を入れた Q&A 形式とし、スライド 2～3 枚で読み進める形式が良い。 ・図を用いる際には、2 軸で比較する形にすると、視覚的に分かりやすい。 ・市民に実感してもらうには、グラフの見せ方も重要となる。
・表現方法 (マンガ・キャラクター)	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガは目に付きやすく、知識がない状態でも入りやすい。マンガで導入ができれば、その後の数字も頭に入りやすくなる。 ・有名なイラストレーターを起用すれば若い人も読んでくれるのでは。 ・時のわらしは市民に浸透しているので、キャラクターとして使えそう。
・記載内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる市民の生活実感から生じる疑問点を、財政の視点で見るという切り口も面白い (コラム)。 ・基金残高が増加したことなど、この 10 年間の成果となるものがあれば、それを市民に伝えることも大事である。
・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・行間や余白など、読みやすい設定をすることが大切である。 ・デザインは投資であり、みんなが読んでくれて将来的に良い効果が生じるのであれば、必要なお金をかけるべきである。
・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人向けに、Youtube 配信も考えられる。 ・「日本一文字が少ない財政白書」のように、他にはない財政白書に挑戦していくのも面白い。
・意見まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・他市事例では、藤沢市の財政白書が全体的に評価が高い。 ・作成に当たってのキーワードとして、簡潔、短め、図表やグラフ、マンガ、問いかけ、コラム。 ・対象としては、中学生あたり。

<参考>

今後のスケジュール（予定）

8月	第4回検討会（25日(日)13:00～15:30、分庁舎4階 教育委員会室）
9月	総務常任委員会報告（検討状況）
10月	第5回検討会
11月	タウンミーティング
12月	総務常任委員会報告（白書素案） パブリックコメント（～1月）
1～2月	第6回検討会（白書最終案）
3月	総務常任委員会報告（白書最終案）、白書策定

※検討会・タウンミーティングの開催時期・回数等は、検討状況に応じて変わる場合があります。

※2025年度は、次期公共施設配置適正化計画の策定について検討会で検討します。